

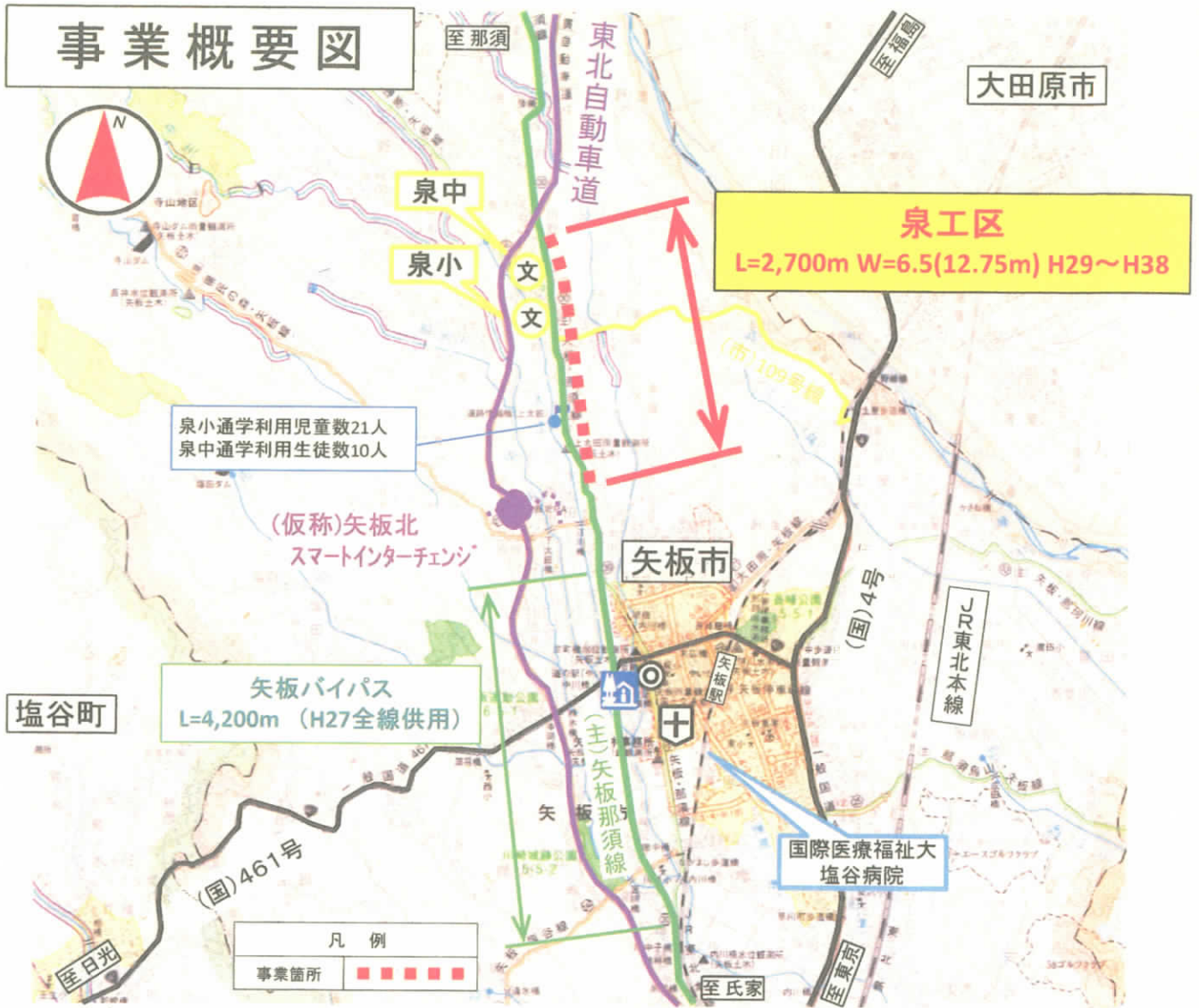
## 事業の概要

事業名	主要地方道矢板那須線 泉工区整備事業		事業主体	栃木県
事業箇所	泉工区 矢板市下太田～田野原			
事業の目的、事業発案の経緯・背景				
<p>本路線は、矢板市乙畑を起点とし、那須塩原市を經由し那須郡那須町に至る幹線道路であり、地域間交流及び沿線地域の社会経済活動や生活を支える重要な路線である。</p> <p>しかし、矢板市上太田から同市田野原地内までの区間においては、泉小学校、泉中学校の通学路であるにもかかわらず歩道が未整備であることから、通学児童、生徒の安全の確保が必要である。さらに最近では、平成17年度より整備を進めてきた矢板バイパスが昨年12月に全線開通となったことや、東北自動車道（仮称）矢板北スマートインターチェンジが今年度新規事業化されるなど、今後交通量の増加が予想されることから、本工区の整備の必要性が一層高まっている状況である。</p> <p>このため、本工区の整備により、通学児童、生徒の安全と円滑な交通を確保し、あわせて県北部と矢板市街地との連携強化を図るものである。</p> <p>また、県議会県土整備委員会においても地元矢板市より早急な整備が要望されている。</p>				
事業内容				
【計画の基本スタンス】				
・現道は人家連担地区に位置するため、拡幅が困難かつ多額の経費を要することからバイパス形式とし、地域の生活に配慮した計画とする。				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・総延長：約2,700m</li> <li>・標準幅員：12.75m（車道6.5m、歩道3.5m、自転車通行帯1.75m、1.0m）（3種2級）</li> <li>・車線数：2車線</li> <li>・計画交通量：8,200台/日（バイパス：平成42年） 2,700台/日（現道：同上）</li> </ul>				
事業予定期間	平成29年度～平成38年度	事業見込額及び内訳	総事業費	約15億円
	用地調査：平成29年度～ 用地取得：平成29年度～37年度 工事実施：平成30年度～38年度	事業費内訳	測量設計費：約1億円 用地補償費：約2億円 工事費：約12億円	
		財源内訳	国費：55% 県費：45%	
事業概要図				
別紙記載				
県計画への位置付け				
本路線は、「県土づくりプラン2016」において、重点施策である「子どもたちの安全を支える『学校周辺の通学路』の整備推進」に位置付けられている。				
他計画・他事業との関連				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・（仮称）矢板北スマートIC 平成28年5月：新規事業化 平成28年6月：連結許可 平成32年度：供用開始予定</li> </ul>				

## 事業の評価

評 価 の 視 点	1. 事業の必要性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本工区の整備により、通学児童、生徒の安全な通学路を確保する必要がある。</li> <li>・円滑な交通の確保により、県北地域と矢板市との連携強化を図る必要がある。</li> </ul>
	2. 事業の適時性 (今事業に着手する理由等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年矢板バイパスが開通となり、さらに東北自動車道の（仮称）矢板北スマートインターチェンジが今年度新規事業化されたことから、今後本工区を通過する交通量の増大が予想されるため、本工区を整備する必要がある。</li> </ul>
	3. 事業の適地性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・現道が人家連担地区に位置するため、拡幅整備が困難かつ多額の費用を要することから、バイパス方式を選択したものである。</li> <li>・バイパスルートは土地利用の状況、施工性、経済性等を総合的に勘案し決定したものである。</li> </ul>
	4. 事業手法の適切性 (県が事業主体となる理由等)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主要地方道矢板那須線のバイパスとして整備を行うものであり、道路管理者として、県が事業を実施する。</li> </ul>
	5. 事業により予想される効果及び影響	<ul style="list-style-type: none"> <li>○経済効果 <ul style="list-style-type: none"> <li>・費用便益比 (B/C) 2.2</li> <li>・総便益 (B) 28.5億円</li> <li>※供用後50年間の効果を金銭に換算し現在価値化したもので、走行時間短縮(18.4)、走行経費減少(8.1)、交通事故減少(1.9)、温室効果ガス等削減便益(0.1)の合計である。</li> <li>・総費用 (C) 13.1億円</li> <li>※建設費と供用後50年間の維持管理費をそれぞれ現在価値化して加算したものの、『事業の概要』の「事業見込額及び内訳」とは異なる。</li> </ul> </li> <li>○泉小学校、泉中学校の通学児童、生徒の安全な通学路の確保</li> <li>○（仮称）矢板北スマートインターチェンジ等広域道路とのアクセス性向上による産業・経済活動への支援</li> <li>○県北地域と矢板市との地域間交流活性化</li> <li>○第二次救急医療施設（国際医療福祉大学塩谷病院）へのアクセス強化</li> </ul>
	6. 事業コスト縮減等の可能性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・再生材の利用や、建設発生土の公共工事間流用に努め、コストの縮減を図る。</li> </ul>
事業の対応方針(案)		本事業については、平成29年度より着手する。

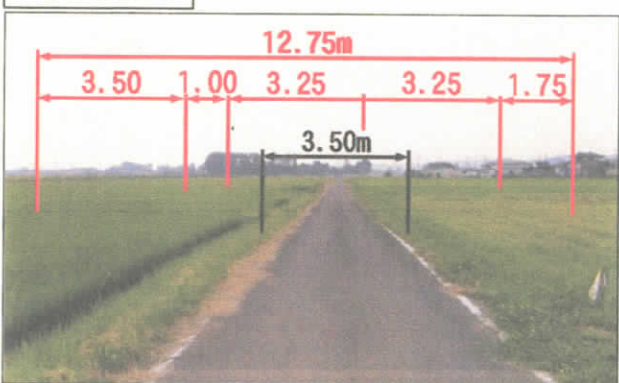
# 事業概要図



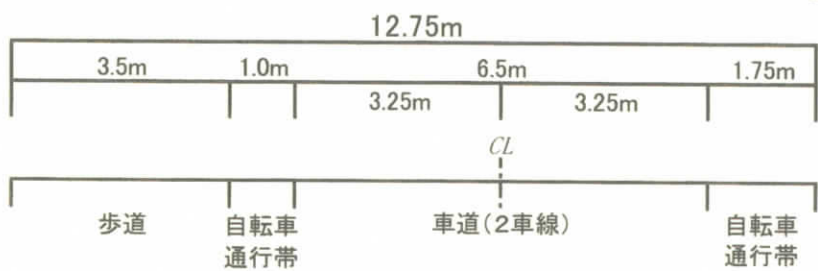
## 歩道未整備箇所の状況



## 道路新設部



## 標準横断面



## 位置図

